

震災アーカイブズの構築

瀬戸真之

(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)



2011年3月11日の東日本大震災から5年が経ち、6年目を迎えている。地震発生当時、私は当時勤務していた埼玉大学地圏科学研究センターの中にいた。最初の揺れで外に飛び出し、中に戻ろうとしてさらに揺れを感じて戻ることを取りやめたことを今も鮮明に記憶している。この時にはまさか自身が福島へ来て震災と向き合うことになるうとは考えもしなかった。

東日本大震災発災後、さまざまな主体（自治体、企業、民間）により、震災の記録を集めた「アーカイブズ」が構築されてきた。また、自治体を中心に「震災記録誌」を作成する動きも広がった。私は岩手県山田町の「震災記録誌」編纂に関わる機会を得た。さて、「公式の」震災アーカイブズはおおよそ県や市町村など自治体が作成するものとなろう。福島県では、県立の「復興祈念公園」を作り、この中に国立の「祈念する場」ができることになっている。この復興祈念公園に隣接する形で「東日本大震災アーカイブ拠点施設（仮称）」が建設されることになった。場所は福島第一原発を望むことができる双葉町内である。福島大学うつくしまふくしま未来支援センターではアーカイブ拠点施設に収蔵する資料収集を担当することになり、私も収集担当となった。

アーカイブする資料はどんなものが良いか。その価値付けは50年先、100年先の人々がそれぞれの資料の利用用途に応じて考えるであろう。そうは言っても、地域にあるものを何でもかんでも収集すれば良いというわけにはいかない。そもそも、資料自体が膨大である。デジタルの資料、紙の資料、実物（例えば震災当時の学校の黒板や津波に巻き込まれて変形した車など）と資料の種類も多岐にわたる。資料収集をする上で、最も重要なことは、①震災前の地域、②震災時（避難が終わるあたりまで）の地域、③震災後の地域を象徴するものは何かを考えて資料を集めることである。すなわち、震災前の地域に「震災」というインパクトが与えられ、被災地域に変容が生じたので、この一連の事実が分かるものを幅広く収集したいのである。このためには、地域のことを深く知る必要がある。また、被災後に地域がどのように変容したのか、今後どのように変わっていくのかを考えつつ、震災資料を収集し、後世に伝えていく必要がある。福島に限らず、被害が甚大であった地域では状況はどこも同じだと思われる。

被災の記録を残すにあたっては分野を問わずあらゆる学問分野の知恵を集める必要がある。しかし、上に書いたように被災地域は被災前と被災後とで大きく変容しており、それ

は今も継続中である。

さて、折角の紙面であるので東日本大震災アーカイブ拠点施設（仮称）整備のための資料収集について事例を述べてみようと思う。資料収集は広範囲で展開しているが、この場では福島県東部（浜通り）の楡葉町での収集事例の一部を紹介したい。楡葉町は昭和31年に木戸村、竜田村が合併してできた町である。合併時の人口は10657人とされているので、現在の7700人よりも多かったことになる。なお、震災前から人口は減少傾向にあった。震災時にはいわき市と会津美里町に役場機能をおき、長期避難を経験した。避難指示解除からは1年以上が経過し、新しい地域作りを進めている。農業を主要産業とし、工業にも力を入れている。なお、東京電力福島第二原子力発電所が立地することから、被災前、被災後ともに町の産業にさまざまな形で原発の影響があることは想像に難くない。



地震で止まった時計
（楡葉北小学校）

ところで、楡葉町では明治以来存続してきた楡葉北小学校が震災の影響を受け、取り壊しとなることが決まった。楡葉北小学校は今年調査に入った時点で、地震発生時に避難し、その後一時立ち入り等で教師や児童が若干の荷物を取りに来ただけの状態、いわばタイムカプセルのような状態で校内が残されていた。福島大学では校内にある書類や掲示物、一時立ち入りの時のメッセージが書かれた黒板などを約1週間かけて収集・保全した。さらには校舎内外を高解像度の動画で記録した。もう一つ事例を紹介したい。それは楡葉町前原地区の集会所である。

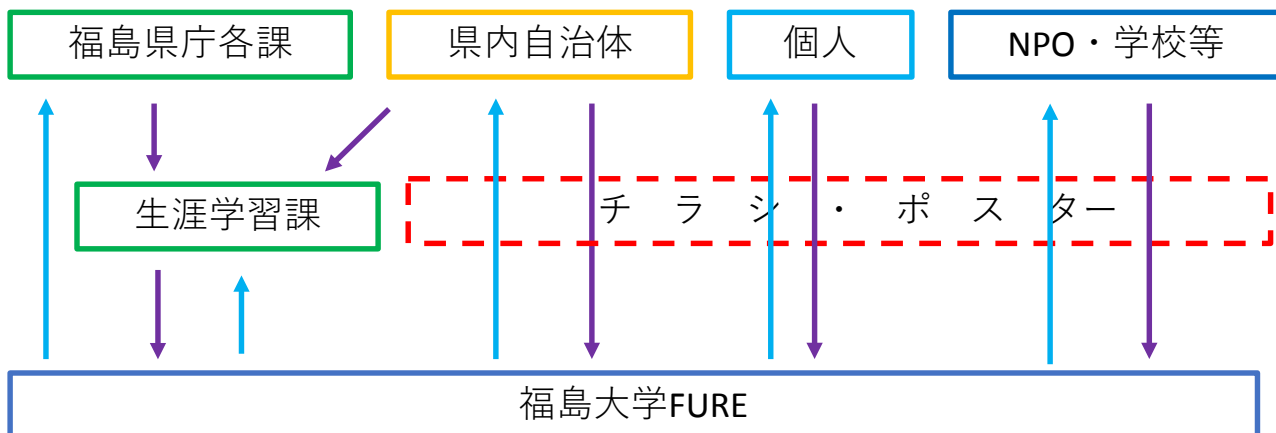
この集会所は海から数百メートルのところに位置しており、周囲の建物は津波で押し流され、ほとんど残されていない。集会所は避難場所に指定されており、今回の災害が想定外であったことが分かる貴重な建物である（実際には町職員の誘導によってこの集会所には避難しなかった）。さらに集会所は津波の来襲方向（必ずしも海から直接ではなく、近くの木戸川を遡った水が押し寄せた可能性が示唆される）や浸水深が分かる数少ない建物であるので最低でも浸水痕を残す扉の保全、外壁にある構造物の変形方向などを記載すべきと私は考えている。建物そのものを残す、という選択肢もあるかも知れない。

小学校や集会所の保全は一見すると「地域調査」とは結びつきにくいかも知れない。しかしながら、もう少し大きな視点で地域をみると、地域に変容をもたらした震災の象徴的な記録として小学校や集会所が有益であることは間違いない。こうした調査・記録をしながら、震災前と震災後の地域が持つ諸相を詳しく調べ、楡葉町という地域、浜通りという地域、東北日本という地域がどのように移り変わってきたのか、今後どのような変化を遂げるのか、さまざまな分野の専門家がそれぞれの専門とする視点から被災地域を観察して欲しいと考える次第である。

福島大学震災資料収集チームの作業

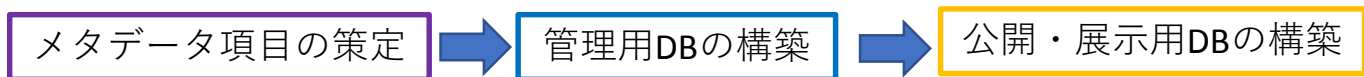
1. 情報・資料収集

→ 情報
→ 収集

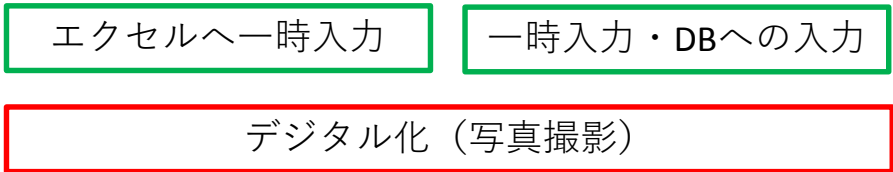


※チラシへの応答 16件 (増加中)

2. 資料のリスト化・データベースの構築



番号	項目	データ型	文字数
1	資料群No	数値	
2	資料群名 (フォンド名)	文字	
3	提供者No	数値	
4	提供者	文字	
5	ボックス番号	数値	
6	ファイルNo	数値	
7	ファイル名	文字	50字以内
8	アイテムNo	数値	
9	アイテム名	文字	50字以内
10	シリーズ名	文字	
11	作成主体	文字	
12	作成年月日	数値	
13	収蔵物の形態		
14	コピー・現物の有		
15	大きさ (高さ×幅×奥行)	バイナリ	
16	重量	数値	
17	素材	文字	
18	房先	文字	
19	保存処理の有無		
20	保存備考	文字	100字以内
21	受け入れの履歴		
22	経歴 (作業開始前)	数値	
23	経歴 (作業終了時)	数値	
24	公開評定		
25	公開日	バイナリ	
26	年表		
27	出版社	文字	
28	ISBN or ISSN	数値	
29	巻・号・通巻	バイナリ	
30	時間 (分)	数値	
31	元場所 (所在地)	文字	
32	元位置情報1 (北緯)		
33	元位置情報2 (東経)		
34	収集日 (納入日)	バイナリ	
35	収集者	文字	
36	収集者No	数値	
37	更新日	数値	
38	URL		
39	数量	数値	
40	保管場所	文字	
41	保管場所日付	数値	
42	保管場所備考	文字	
43	日本語キーワード1		
44	日本語キーワード2		
45	日本語キーワード3		
46	英文キーワード1		
47	英文キーワード2		
48	英文キーワード3		
49	説明1		
50	説明2		
51	説明3		
52	備考		
53	予備1-30		



※現在、管理用DBの構築中
 ※一時入力済み資料 (群) 54,491点

3. 資料の保全

- ・仮収蔵庫の環境調査 (温湿度・害虫)
- ・線量計測/埃払い
- ・資料に応じた保全 (ex.黒板の補強など)
- ・福大収蔵庫の環境改善 (除湿機の導入)
- ・将来的な収蔵庫およびその環境に関する県への助言等



4. 展示会等

- アートで伝える・・・
- FUREシンポジウム
- 学会発表 等